

發行兼編輯人 川崎文治

印刷所 常盤毎日印刷所

本社(同番地)電話六三〇番

印刷所 常盤毎日印刷所

定 一 部 金 武 銭 一 圓 五 十 銭  
 告 白 五 十 銭 一 行 一 日  
 刊 休 日 曜 大 祭 日 祝 日 祭 日 登 載 毎 日 三 新 聞 社 電 話 六 三 〇 番

常盤新聞

刊夕日三十月一

常盤論壇

資本家の労働立法観 (二)

田中五郎

労資の間には、兎角壓迫と専制とが宿り易い。この忌むべき社会的危機を出来るだけ取のかわいふのが労働立法の本旨である。しかして、労働組合法は労働者を一團として資本家との間に自由な労働条件を協定せしむるにその主要目的の一であり、同時に團體に特定の意思能力を認めるとが組合に法人格を設定する根據となるのである。この法人をしてその生存目的のた

め活動せしむるには法人を組織する組合員が、その主張を貫徹するため同盟罷業に出るか否かにつき、最も自由な各自の意見を發表することを得なければならぬ。これ即ち治警第十七條の撤廢を要するゆゑである。右に對する資本家の意見は組合の目的として労働条件以外に技能の向上相互扶助等を加へるのはよいとして罷業の發起者または主謀者に對しやゝもすれば刑罰を以て臨まんとする治警第十七條を存置するとは國家の刑罰權を労働者に對して偏頗に行使する結果却つて恐るべき危険思想の種をま

くことになる。長く司直の任にありて刑罰萬能主義を信奉する人々すら、治警法の利少くして害多きを認むるもの多き今日、當業者として廿年前の説を固執しつつあるは迂濶といはなければならぬ。その他労働組合構成の最低人員を五十人とするといふことや、労働者以外のものゝ加入を拒むこと及び組合の設立につき、やかましき條件を設くることのかまじき一應の理窟はあるにせよ、元來労働に關する法規は實際上中々行はれ難いものでその立法は出来るだけ大まかでないならば

(つづく)

京都産出瓦斯販賣 有聲座隣  
 コークス 待機販賣 電話四〇番

加藤營業所  
 平白銀町十五番地  
 振替口座 仙臺六二四三番  
 平町三二番二五五番

保 險  
 神戶火災 平代理店  
 東洋火災 平代理店  
 共保生命警東代理店  
 御用は電話三二番へ

家 賃  
 仲問町 商店向 十圓  
 同町 勤人向 六圓 五圓  
 櫻町 勤人向 十圓 九圓  
 内郷村 小島  
 白銀町 勤人向 六圓  
 商店向 十圓

常盤文藝

河水清 宮田明愛

△鮎一つ淵のさされに光りけり  
 △かはせみや早瀬に魚を捕へけり  
 △澤村の名も流れつつ夏井川  
 ■雪しろしみ山おもふも心地よき清き流れの河のみなもと  
 ■さらさら照る朝日の峯にのぼりそめ我が里の河清く流るる  
 ■峯にして見る初春のこの河や清かに流る遠つ御代まで

美味しい温かい  
 冬のふみもの

森永ミルクコ、ア六十粒入 六十銭  
 紛末即席コーヒ 中 罐 入 四十銭  
 大 罐 入 六十銭

ヤトモツマ  
 番四一二電

関内藥局  
 平町四丁目  
 電話四拾番

銀なべ  
 御入浴も御隨意です御散歩の折には是非従来同様御運び御風味の程を御願いたします

牛豚 氷  
 石川亭  
 平町田町電話四十三番

第二病室 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町電話三一五番

新年宴

大、小、に不拘特に勉強致しますから相變らず御用命を御願申上ます

平 驛 前  
 電長二二二番

丸新館

平町屋 吉田眼科醫院

大正生命保險株式會社 平代理店

多田井質店  
 平町大工町

愚妻松代分婉期に相當と豫て鎌倉產科病院に入院中の所十一日午後七時半男兒分婉同九時半母子共死去仕候此段生前辱知諸君に謹告仕候

尙古日午後二時當地に於て告別式相替可申候  
 大正十五年一月十三日  
 神奈川縣逗子町仲町通り六八一  
 佐々木亥三郎

うごん。そば  
 うなぎ。天井  
 親子井五もく

平町長橋町 まつや

萬年瓦  
 福島縣西金町  
 萬年瓦製造株式會社  
 電話三八

### 本社長宅を襲つた 窃盗犯今朝捕はる

#### 昨夜は不眠不休で 各刑事八方に奔走

### 前科十犯の兇賊

昨報十二日午前二時頃川崎  
本社長宅を襲つて洋服其他  
を窃取した窃盗犯に關して  
は櫻村署長其他の現場臨檢  
に依つて直ちに

#### 捜査方針

を決定し  
吉田刑事部長以下村上、猪  
狩、森山、佐藤、榊原の各  
刑事八方に奔走し昨夜は一  
睡も爲さず大努力の結果今  
朝湯本町備中屋旅館にて前  
科十犯當時居所不定石川縣  
鹿島柳東添村大字田五部生

### 平町の常盤屋から 佐藤代議士訴へらる

#### 取立金を費消して 二萬五千圓の損害賠償

平町一丁目常盤屋時計店松本元三郎氏は門傳辯護士を  
訴訟代理に依頼し相馬郡選出代議士佐藤富十郎氏に對  
して二萬五千圓の損害賠償の請求訴訟を此程平區裁  
判所に提起した、其理由は左記の如くである

佐藤代議士は大正十年十月  
頃相馬銀行が太阪市の儀藤  
次郎氏に貸付けた二萬千  
五百圓の債權取立を頼まれ  
た、是れを承諾した佐藤代  
議士は早速大阪へ行つて儀  
氏に交渉し同年十二月六日  
に儀氏から二萬千五百圓を  
受領したのである  
が此金を相馬銀行に一文も  
引渡さず自分が勝手に費消

### 各種の方面から 平町を覗く……(その六)

#### 辯護士からの頼みがある

▽……辯護士の立場から見た平町に對  
する觀察談も一風變つたものであらうと  
茲に紹介するのは某少壯辯護士の談であ  
る、平町は海岸線重要な都會であるだけ  
に商取引に關する賣掛代金又は手形上に  
關する民事上の事件は仲々に多いが一方  
刑事事件はどうかと云ふに至つて少ない  
▽……夫れから一般的に云ひば法律思  
想が極めて幼稚で随分と危険であり且つ  
杜漏な又滑稽な事柄を平氣で取引上等に  
繰り返して居る、斯ふ云ふ點が惡三百等  
にねらはれる最大な原因で法律を解さぬ  
結果自分自身が招く損失である  
▽……又一般に訴訟を辯護士に依頼す

ら一刻も速やかに解決して  
貰へ度いと迫つた所言を左  
右に托して誠意ある回答を  
齎らさないのを訴訟を提起  
するに至つたのだといふ

### 石米作成績 農試分場発表

其筋の最近發表に係る大正  
十四年度大要報告(水稻)に  
よれば石城郡神谷村所在縣

### 才藏どうした 頭をハツシ

#### 例の時報子が 辯じ立てた大瀧問題に

昨日の磐城時報を見ると  
「八方ふさがりの大瀧問  
題夜話」と題し例に依つ  
て珍妙不可思議な文字が  
並べてある、今更ら歯牙  
に掛けるのも大人氣ない  
が問題が問題だけにチヨ  
ットその文句尻りを押へ  
て掛け合へ嘶し其儘に「  
才藏どうした」と計りハ  
ツシとその頭上に張り扇  
を加へて御覽に入れる  
時報子の辯じ立てるには大  
瀧發電所問題に就いて此際  
一も二もなく會社側と妥協  
するのが何より得策の事だ  
とて



家庭欄

### 吉事の服装

通常男子は紋服、袴、又は  
フロックコードを禮服とし  
略式には縞物に紋付羽織袴  
式はモーニング黒背廣でよ

農事試験場石城分場の十四  
年度早稲は一段歩の容量二  
石四斗六升三合一升重量三  
百七十四匁三同中稻二石五  
斗三升一合重量三百七十七  
匁三、晚稻二石六斗八升五  
合一升の重量三百八十八匁三  
平均二石五斗五升九合重量  
三百七十七匁三で平年に比  
較してさしはたる増減がな  
いと

る發電所が水道の残水で發  
電するとはドコを押せばソ  
ンナ音が出るか、是れは殘  
水の二文字に依つて胡摩化  
さんと殊更らに主客の位置  
を異らしめて御体裁をつく  
つたに過ぎない、夫れから  
第二の條件は假りに條件通  
りに一步譲つて平町が水門  
を閉塞する事を得たとして  
も水路に故障が生じた場合  
水門を閉塞してどうなる、  
一層水が出なくばかりであ  
らう、コンナ上ツ面の胡魔  
化し文句で一營利會社に平  
町民の命の鍵を許してたま  
るものか、殊に是等の條件  
に政府の保證とはあきれて  
モノが云へぬ、條件が愚劣  
であるにせよ、ないにせよ  
「是等の諸件拙者儀に於て  
責任を帶し決して御迷惑相  
掛け間敷く……」と保證の  
一札を政府が入れるか入れ  
ないか常識で判斷する迄も  
なく解り切つた次第ではな  
いか

### 好問賭博檢舉

朝鮮  
人小間物行商安丹村(三)に  
内地人も三名加はつて十二  
日午後九時頃石城郡好問村  
大字北好問木賃宿にて花合  
賭博開帳中鳴原巡査に踏込  
み逮捕された

### 谷間に轉かる 老爺の屍体

#### 山探して發見

石城郡水戸村大字下永井字  
火澤農三邊寅藏(五)は八日  
午前十時頃同村山林内に枯  
木拾へに行つた儘歸宅とな  
いので近所の人達も一所に  
山探をした結果十日正午  
後谷間に死体となつて横は  
つて居たのを發見したが心  
臟麻痺の爲め病死したので  
あると

### カン泥棒

#### 前科は六犯 當時住所不定山形縣山形市

### 盲生の家出

#### 行衛が解らぬ

平町田町財團法人磐城訓盲  
院生徒根本孝(八)は十日前  
箱を窃取逃走し穂積巡査に  
捕はれた

### 募集

文藝其他投稿  
を募集します  
盲院を無断に出でたま、行  
衛不明となつてゐるので十  
二日親元から平署に搜索方  
を願ひ出でた